**聞こえてますか？ 2016 04 17**

**ヨハネ10:22-30 安達均牧師**

主の恵みと平安が豊かにそそがれますように！

“Can you hear me?” 「聞こえますか？」という言葉は、電話をしている時に、よく使ったりする。　電話でこの言葉を使うのは、まちがいなく、私の言葉が相手に音として聞こえているかどうかを確認するために使う。

しかし、ほとんど同じ言葉だが、親が子どもに、「だれだれちゃん、聞こえてるの？」　とか「だれだれちゃん、聞いているの？」という言葉を話すことがある。　小さい子だったりすると、「うん聞こえてるよ。」と親の声を音として聞こえていることを言うことがある。

しかし、得てして、親は子どもに、音として聞こえているかどうかを問題にしているのではない。　親は、子になにか大切なことを話していて、その話したことを理解し、子が親の言うことに従って、なんらかの行動をとることを期待している場合が多いのだと思う。

与えられた福音書、全部で9節あるが、今日の箇所の中では、27節がひとつの大きな鍵となる節だと思う。　27節を原文のギリシャ語を日本語に直訳した言葉で述べてみたい。「わたしの羊はわたしの声を聞き、わたしは彼等を知る、そして彼等はわたしに従う。」

さらにこの節には、二つのキーワードがあると思う。　「聞く」という言葉と「知る」という言葉。　聞くという言葉は、冒頭に話したように、ポイントは、羊が羊飼いの言葉を音として、聞こえているというわけではなく、羊が羊飼いなるイエスの言葉の意味がわかるということ。

そして二つ目のキーワードは、「知る」だが、「知る」という言葉は、面白い。　ここにいる者全員、オバマ大統領、あるいはトランプという候補者を「知っている」といえるだろう。　それは、多くの場合、オバマ大統領やトランプ氏を新聞やテレビ、あるいは、インタネットを介して、知識として知っている場合に、この知るという言葉を使っている。

じゃ、逆に、オバマ大統領を、ここにいるみんなのこと、一人一人を知っているのだろか。知らないのである。　しかし、私たちが、「だれだれさんのことを知っている。」といったとしたら、それは、わたしもOOさんを知っており、OOさんも私を知っていて、知識として知っている以上に、もっと深い関わりがある場合を言っている場合が多い。

それと同じようにイエスが「私が彼等、羊たちを知る。」というのは、もっと深い意味がある。　今日の聖書箇所の少し前、イエスは「私は良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。」と話されていた。

そして本日与えられた福音書では、「わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。」と言われている。　復活節の時期に、イエスが語っていたこれらの言葉をぜひ覚えておきたい。「父は私を知っており、私は父を知っている。同じように、私は羊を知っており、羊は私の声を聞き、従う。」　イエスは、父なる神と自分の関係がいかに深いか、さらに、自分と羊たちとの関係もいかに深いものであるかを語っておられる。

与えられた福音書の最後の方で、イエスは、こう言われた。「わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。 」イエスが、「すべてのものより偉大」なものとは何を語っているのだろか？

キリスト教徒の教育者であり、ゲストスピーカ等で講演会をする パーカーパルマー博士は、「知られるにつれ知る」(“To Know As We Are Known”)という本を書いている。　その本の第一章では、知識について、大きく二つのことを述べている。ひとつは、いわゆる科学などで理解する知識、しかし、彼はだんだんと霊的な知識というものに触れていく。そして、知ることは、愛すること、(”Knowing is Loving”)だと教えてくれている。

このメッセージの中で、私は聞くことと知ることばかりを述べてきて、今日の聖書の箇所からは愛という言葉を使ってメッセージを話してこなかった。　しかし、父なる神は、なによりにもまして大いなる愛をイエスに授けてくださり、そして、その同じ愛を、十字架の死と復活を通して、羊たちに、つまり代々の弟子たちに、そして私たちにも下さっているのではないだろうか。

私たちは、2000年前に起こったイエスキリストの死と復活を知識として知っているのだが、ただ、それで話は終わるわけではない。今も私たちは、イエスキリストの愛の声を聞き、そして、イエスに従うものである。

本日のメッセージ、私の神学校の説教の授業の教授だった、デイビッドロウス教授の言葉を引用して終わりたい。

「これまでの人生、イエスの声を聞いたことがあるだろうか？　それはどんな声だっただろう？　あるいは、聞いたことが無いといわれる方々、イエスはあなたに何をするように呼びかけているだろう？

これらの質問について、思いを巡らすにあたって、イエスは全員のことをわかっておられ、愛しておられることを覚えておこう。　そしてその神の愛は、わたしたちから決して引き離されてしまうようなものではない。アーメン